（2） 令和4年度　学校自己評価表

（ 最終 ）　　学校名　三原市立田野浦小学校　　校番（　6　）

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション（自校の使命）】　自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン（自校の将来像）】　児童が満足する学校，保護者が安心する学校，地域が誇りに思う学校，そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。

評価計画					自己評価							改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価 イ	ロ	ハ	コメント
確かな学力	すすんで学び，よく考え豊かに表現する学力を育てる。	基礎・基本の学力向上	○主体的な学びにつながる授業の実施 ・児童の課題意識を生み出す発問構成の工夫 ・集団思考場面での児童の思考を引き出す発問構成の工夫 ・「検定問題」での学習到達度の把握と定着 ・ICTの活用	【各種学力調査】 ①単元末テスト（算数）の正答率　85% ②全国学力・学習状況調査の正答率，全国平均以上　100% ③NRT（学力テスト）の正答率，全国平均以上　100% 【児童アンケート】 ①「算数の授業が楽しい」 85%	今回は①のみ 85% 【100%】	94%	85%	100%	A	【各種学力調査】 ①知識技能　87.4%　思考・判断・表現　85.5% ※②と③については，前期で報告済 【児童アンケート】①83.1% ○単元末テストの正答率は，目標を達成した。思考力の正答率が微増した。 ●学年ごとの正答率の差の解消が図れなかった。	○学年末及び，来年度に向けて，以下の取組を継続して行う。 ・ユニバーサルデザインの授業づくり ・ICT機器の効果的な活用 ・ドリルタイムや家庭学習と授業の関連付け ・「百ます計算」の継続 ・家庭学習をやり切らせる ・個別の学習指導や「放課後学習」の活用 ○児童が各時間において本時の課題を明確に持てるような，問題提示や発問構成の工夫を継続しておこなう。 ○思考力・表現力・判断力の向上に向けて，授業において「山場」となる部分を明確にし，ペアトークやグループトークを効果的に設定することで，自分の考えを表現したり，相手の考えに触れさせたりする授業づくりを行う。	2			・適正に評価されている。 ・どの学級もとても落ち着いて授業を受けている。 ・とてもいい雰囲気で学校が動いているのを感じる。 ・3年生までに学習面の規律づくりができている。指導の成果が見られた。 ・力のある発言をしている場面を見ることができた。表現する力がついてきている。
			○学習規律の徹底（4月中に達成） ・チャイムの順守 ・学習環境を整備（机の上，筆箱） ・返事の定着（名前を呼ばれたら「はい」）	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」 ②「机の上や筆箱など，身の回りを整えて学習していますか。」 ③「名前を呼ばれたら返事をしていますか。」	95%	92%	94%	99%	B	【児童アンケート】 ①95.7%　②92.9%　③93.9% ○重点取組期間の設定で，チャイムを意識して学習することができるようになった。 ●机上整理，返事については達成することができなかった。 ●取組状況での学年，クラス間の解消が図れなかった。	○重点取組項目について各学級，学年で振り返り，机上整理，返事を重点的に取り組む。どの学級でも同じ学習規律のもと，学習を行うことができるようにする。				
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに，夢や目標をかなえるための生活習慣身に付けさせる。	完全不登校の根絶	○不登校の未然防止 ・年に2回実施するQ-Uを基に，構成的グループエンカウンターの計画的な実施 ・全職員による児童実態の連携実施 ・関係機関との協働的な連携実施	①「学級生活満足群」に属する児童の割合の上昇。「学級生活不満足群」や「要支援群」に属する児童の割合の減少。 （1回目と2回目を比較して） ②不登校児童，昨年度以下	85%	100%	100%	118%	A	①学級生活満足群　68%（1回目）→　71%（2回目） 学級生活不満足群　12%（1回目）→　8%（2回目） 要支援群　2%（1回目）→　1%（2回目） ②昨年度不登校児童8名（2月中旬） 今年度不登校児童8名（2月中旬） ○「学級不満足群」に属する児童数は，42名（1回目）から34名（2回目）に減少した。 ○「要支援群」に属する児童数は，11名（1回目）から6名（2回目）の約半分に減少した。 ●不登校児童数は，昨年度と比較して増減はなかった。 ●不登校児童数に増減はなかったが，長期欠席児童数が10名（昨年度）から13名（今年度）に増加した。来年度，不登校に転じ，不登校児童数が増加する可能性もある。	○共感的人間関係の育成に向けて，来年度は，1学期から構成的グループエンカウンターの計画・実施ができるように校内研修を行う。 ○不登校の減少に向けて，引き続き家庭連絡を密に行う。特に，行き渋りや遅刻が多い児童が朝登校していない場合には，朝のうちに保護者に電話連携する。 ○全職員で不登校児童の実態について共有し，組織的に取り組む。	2			・適正に評価されている。 ・登校時や下校時に，教職員対子どもだけでなく，子ども同士の挨拶が日常的にできるようになるとよい。教職員が手本となることが大切である。
			○小中スタンダード（SDNあいさつ，言葉遣い）の定着 ・児童会役員によるあいさつ運動の実施 ・相手に応じた丁寧な言葉遣いの指導	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「SDN（先に誰にでも何度でも）のあいさつができていますか。」 ②「『です』，『ます』をつけて，ていねいに話をしていますか。」	85%	82%	82%	96%	B	【児童，保護者，教職員アンケート】 ①77.7%（保護者61.3%，児童83.7%，教職員88.0%） ②85.3%（保護者67.6%，児童88.4%，教職員100%） ○「『です』『ます』ウィーク」をきっかけに，意識的にあいさつや丁寧な言葉遣いをしようとする姿が見られ始めた。 ○あいさつをすることで，互いに良い気持ちになることに気付き，今後もあいさつを続けたいと考える児童も生まれた。 ○職員室の入退出の際の所作や言葉使いは定着している。 ●「あいさつを指導している」に関して，教員の肯定的評価率が低下した。 ●児童同士のあいさつや教員へのあいさつが減少し，あいさつ運動自体が形骸化しつつある。	○児童会主導の「あいさつスタンプラリー」を計画・実施し，担任外の先生や児童会役員の児童へあいさつする機会を作り出す。 ○「あいさつボランティア」を募り，児童会のあいさつ運動へ自主的に参加できるような仕組みを作る。 ○「『です』『ます』ウィーク」を定期的に実施し，家庭での取組についても呼びかける。 ○「『です』『ます』ウィーク」が終了後，子どもたちの振り返りや様子について，学校だよりや学年通信を通して保護者に発信する。				
健やかな体	体力を高め，感染症予防に対する高い意識を育てる。	新体力テスト結果の向上	○運動能力の向上 ・運動量を確保する体育授業の工夫を共有化 ・4月と10月，2月の長座体前屈計測で向上率確認 ・年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発	【4月・10月・2月の長座体前屈の記録】 ①県及び全国平均値以上　75%以上	75%	40%	51%	68%	C	【4月・10月の長座体前屈の記録】 ①39.8%（4月）→51%（10月） ○4月に比べると，2学期より取り組んでいる朝のストレッチにより，全国平均値を上回る児童の割合は増加した。 ●目標値を大きく下回った。	○引き続き，全校での朝のストレッチに取り組ませ，継続して運動に慣れさせる。 ○引き続き，体育の授業の準備運動にアクティブチャイルドプログラムの動きや主運動につながる予備運動を取り入れ，運動が苦手な児童も意欲的に体育の授業に取り組めるようにする。	2			・適正に評価されている。
			○病気や感染症予防に対する行動の向上 ・ハンカチ持参の強化週間を設定 ・ICTを活用した手洗い方法の指導 ・授業や各種便りを活用した啓発	【ハンカチ点検】 ①ハンカチ持参率　90%以上 【児童意識調査の肯定的評価】 ①手洗い実施，マスク着用，ハンカチ持参に関する肯定的評価　90%以上	90%	93%	93%	103%	A	【ハンカチ点検】①93.8%　【児童アンケート】92.7% ○ハンカチ持参や手洗い消毒に対しての意識が高いまま維持できている。 ●ハンカチを忘れる児童が固定化されている。	○引き続き，ハンカチを忘れる児童の家庭と連携を図ると共に，今後も実態把握と啓発を行っていく。 ○朝の会や委員会等を活用して，ハンカチチェックを行い，忘れる児童が少ない学級を評価するなどしながら，ハンカチ持参の意欲を高める。 ○手洗い，消毒の必要性を教科や特別活動を活用して指導する。				
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに，15年間を見据えた教育を行う。	働き方改革の推進	○時間外勤務月45時間以内を完全実施 ・月間勤務時間合計の確認，助言 ・行事，事務作業の計画，精選 ・教材の共有化	【超過勤務　月45時間以内】 ①在校時間一覧表による超過勤務時間 【教職員アンケートの肯定的評価】 ①「現在，生き甲斐や行き甲斐を感じることができている。」	90%	85%	86%	95%	B	【超過勤務　月45h以内】 ①4月～1月までの月45h以内の割合　84.6% （重点月のうち，7・8・1月は100%） 【教職員アンケート】 ①88%（前回は92%）　業務遂行について見通しを持って行うことができていないと感じている。	○働き方改革重点月への取組の徹底を行う。（2月） ○学年や部で見通しを持ち，早目に着手していく習慣を付ける。 ○成績処理や部の業務等を行う時間を設定し，時間を確保する。	2			・適正に評価されている。
			○地域に信頼される学校づくり ・年間計画及び，時期に応じた服務研修実施 ・1年に2回，保護者・児童アンケート実施	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「田野浦小学校に通ってよかったと思いますか。」 【保護者アンケートの肯定的評価】 ①「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」	95%	95%	95%	100%	A	【児童アンケート】①95%　【保護者アンケート】①96% ○コロナ禍でもできる限り行うという視点を引き続き持ち，学校行事や参観日，PTA活動，オンライン授業，校外学習等の取組を前向きに行ってきたり，「分かる授業」を目指して取り組んだりした成果である。 ○服務研修を計画的に実行できている。 ●5%の児童が，学校に対して不安や不満な気持ちを持っている。 ●あゆみで評価を知る前に，事前に担任と保護者が連携を行い，学校と家庭の双方向から児童を伸ばしたいと記述した家庭がある。	○学校に不安や不満な気持ちを持っている児童に対して，カウンセリングマインドを持ち，聞き取りを行う。その後，学年団でその児童に対する取組を組織的に考え，実行する。 ○児童のより良い成長に向けて，保護者連携が重要であることを再確認し，必要に応じて連携を図っていく。				

本年度の重点目標については◎印で

【ｊ：自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【Ｉ：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。